



大浦だより

令和 6 年 11 月 29 日発行
舞鶴市立大浦小学校

教育目標「希望に燃えて
心やさしく、人を大切にする子
自分を表現し、相手を大切にする子

伸びゆかん」
自分の考えをもち、共に学び合う子
ふるさとを愛し、誇りに思う子

〒625-0133 舞鶴市字平 1583 番地
TEL (0773)-68-0002
FAX (0773)-68-0007
HP <https://oura-maizuru.edumap.jp/>



美しい大浦に ～瀬崎のビーチクリーン～



大浦小学校からクレインブリッジを渡り、平トンネルを抜けて大丹生に入るとオレンジ色のみかんが鈴なりになっているのが目に留まります。一方、佐波賀の海岸沿いには青々としたレモンがたわわに実っています。これら大浦ならではの柑橘類の成熟を見ると、秋もいよいよ深まってきたのだと実感します。

大丹生のみかん畑を通り過ぎ、『舞鶴ふるるファーム』を越えると美しい瀬崎海岸に行き当たります。11 月 11 日（月）、全校児童 43 名でこの瀬崎海岸のビーチクリーン（海岸の清掃活動）をしました。瀬崎は海からの強い風で海洋ゴミが流れつきやすい場所です。バスから降りた子どもたちは、すぐにゴミの多さに驚きました。大浦未来学では、大浦の魅力を発信することを 1 つの目標にしています。「ゴミのないきれいな大浦校区にしたい。」と願って子どもたちは一生懸命に目の前のゴミを拾いました。そして、参加していただいた皆様の御協力もあり、軽トラック 3 台分のゴミを回収することができました。回収したのはゴミ全体のほんの一部に過ぎませんが、来た時よりもきれいな海岸になりました。



ビーチクリーン後の瀬崎区長様の一言は重く心に残りました。「きれいにしていただいてありがたいことです。しかし、時化（しけ）が来ればまた大量のゴミが流れてきます。」これが現実であり、残念ですが受け入れなくてはなりません。

簡単には解決しないこと、答えがすぐには見つからないことを考え続ける力を「ネガティブ・ケイパビリティ」と言います。海洋ゴミの問題は容易に解決しそうにありません。子どもたちは、ゴミを拾ってホッとしたのも束の間、区長さんの言葉からまた新たな課題に向き合うこととなりました。ゴミは一旦学校に持ち帰り、5 年生がどんなゴミがどれくらいあるのかを調べました。ゴミはお宝として、ゴミアートの活動に活かしていきます。

「次は野原や田井など、まだ行っていない場所も掃除したい。」と子どもたちの思いは次へと向かっています。参加していただいた瀬崎地区の皆様、大浦子育て支援協議会様、民生児童委員様、校区駐在所の皆様、ありがとうございました。これからも美しい大浦を目指し、何ができるかを子どもたちと一緒に考えて行動していきます。今後の学校行事にも、保護者・地域の皆様の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

校長 鎌野 高信 教職員一同

○本校教育活動の広報発信の一つとして、学校ホームページを随時更新いたします。
右記の QR コードからも開くことができます。ぜひ御覧ください。

